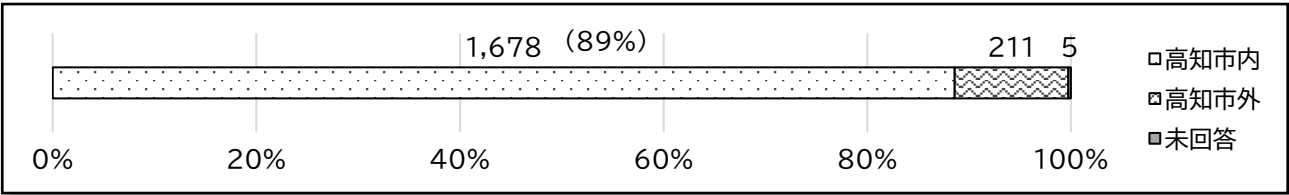


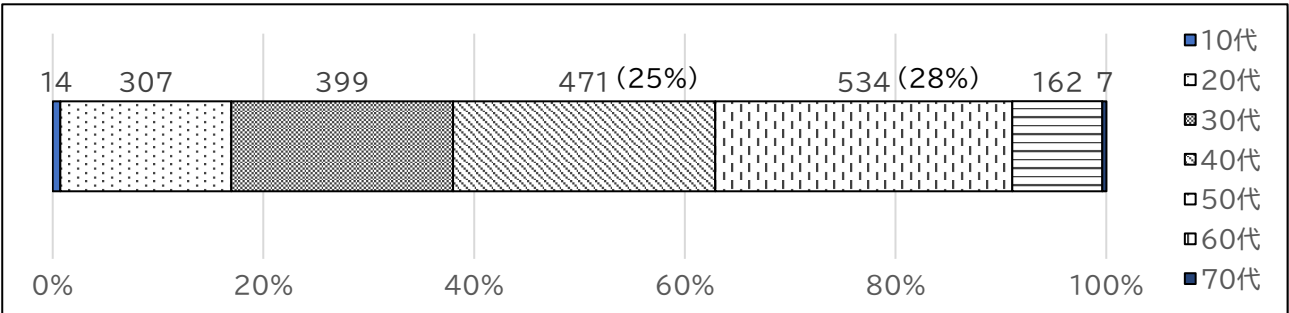
# 計画素案作成に向けてのアンケート結果(1)

- 実施期間：令和7年12月10日～令和8年1月9日
- 対象者：市職員3,365名 ※アンケート実施時点での職員情報共有システムの使用者等
- 回答数：1,894名 ※システム及び紙での回答

## □ 質問1 回答者の居住地



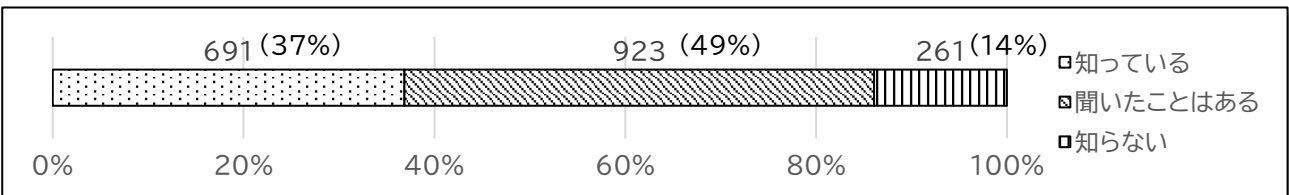
## □ 質問2 回答者の年齢



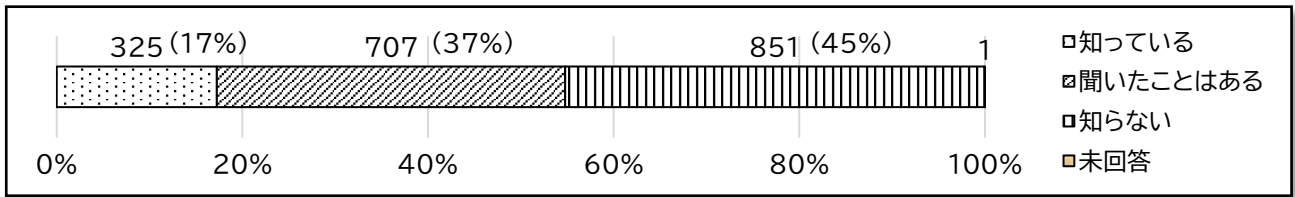
### 【質問1、2の分析結果】

- ・アンケート配信者数 3,365 人の内 1,894 人が回答、回答率は約6割である。
- ・回答者の約9割は高知市内在住である。
- ・回答年齢層は年代ごとに一定数の回答を得たが、10 歳代が少なく、50 歳代、60 歳代の合計で約半数を占めている。

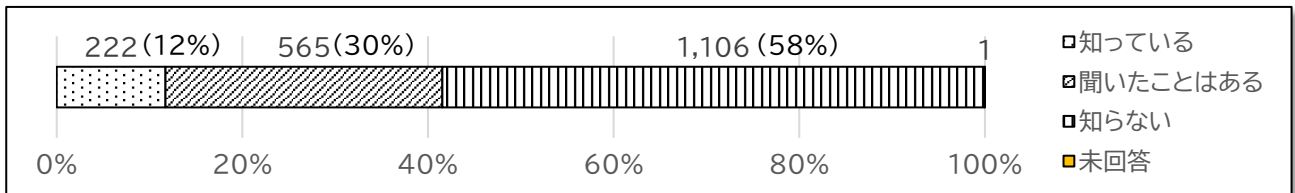
## □ 質問3 「高知市民憲章」をご存知ですか。



□ 質問4 「鏡川清流保全条例」をご存知ですか。



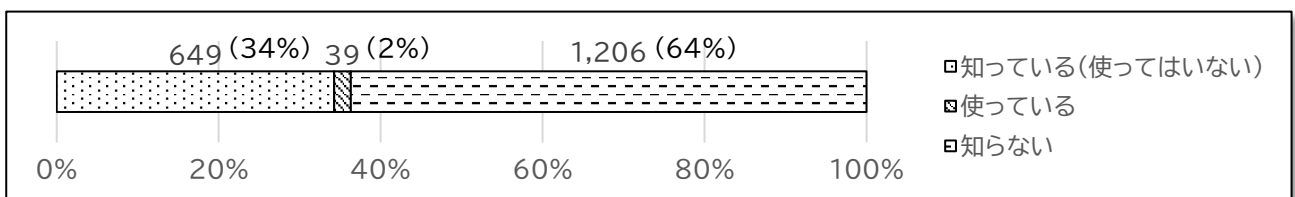
□ 質問5 「鏡川清流保全基本計画」をご存知ですか。



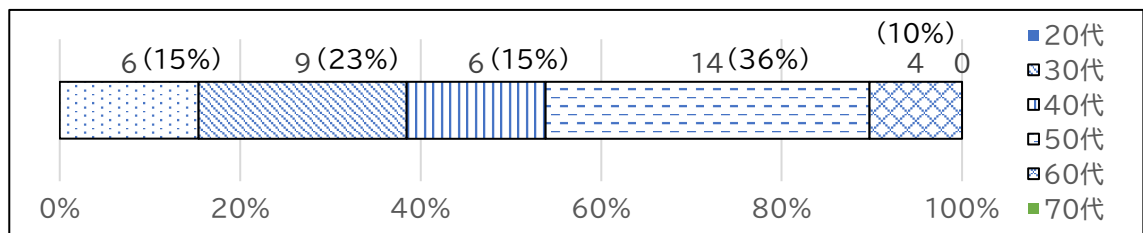
【質問3、4、5の分析結果】

- ・「高知市民憲章」を「知っている」、「聞いたことはある」を合計した回答は全体の8割強であり、職員研修や浦戸湾・七河川一斉清掃などで全庁的な認知度が高いことが考えられる。
- ・「鏡川清流保全条例」及び「鏡川清流基本計画」の認知度は十分とは言えず、「鏡川清流保全基本計画」の回答割合は4割程度である。継続性が重要となる鏡川清流保全の取組は、息の長い広報が必要と考えられる。

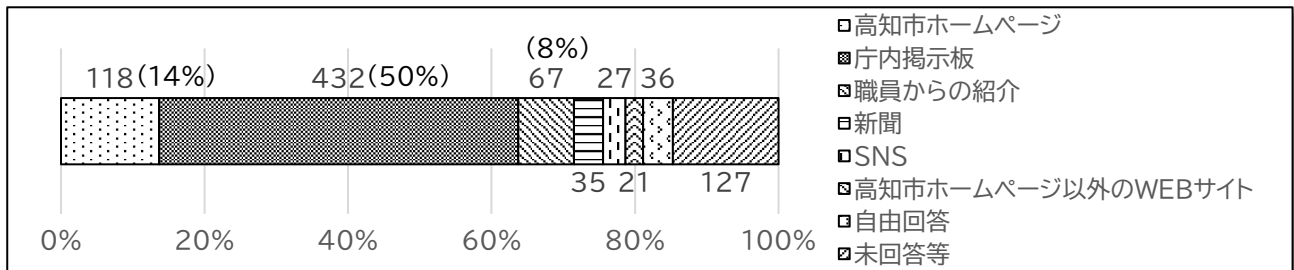
□ 質問6 高知市で運用するスマホアプリまちのコイン「ぼっちり」をご存知ですか。



※ぼっちりユーザーの年齢層(質問6で「使っている」回答者の内訳)



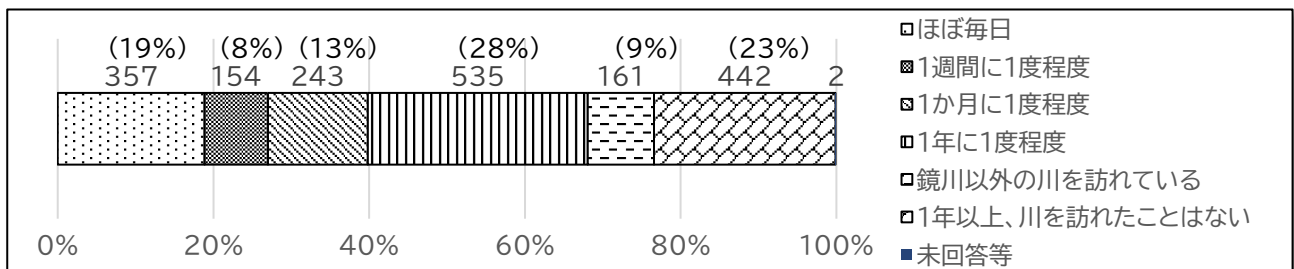
□ 質問7 (まちのコイン「ぼっちり」を知っている、使っている回答者に対して)  
「ぼっちり」をどちらで知りましたか。※複数回答(863)



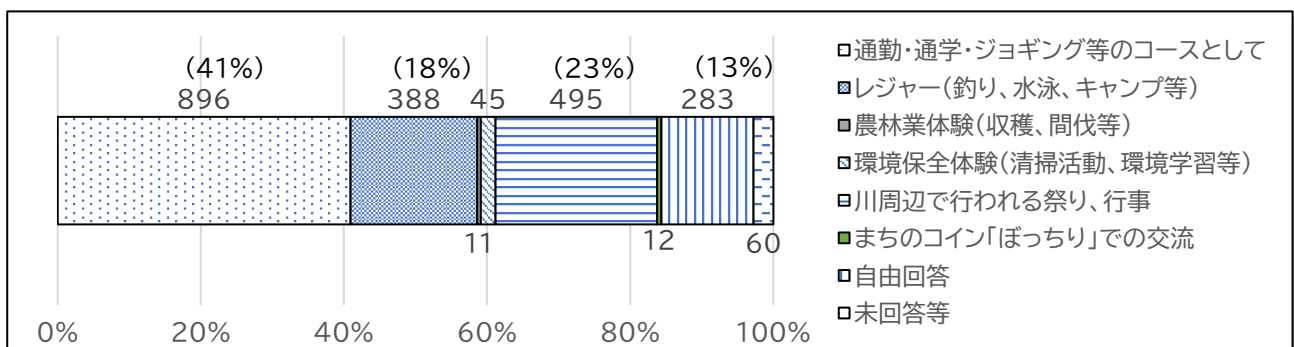
【質問6、7の分析結果】

- ・回答者の約6割が「ぼっちり」を認知しておらず、さらなる周知が必要である。
- ・ぼっちりユーザーは 50 歳代、30 歳代の順に多く、全年齢層で万遍なく回答があり、スマホアプリの活用に関わる世代のハードルは低くなっていると思われる。
- ・ぼっちりユーザーの年齢層は、環境保全に関心がある年齢層との関連性が一定あると思われる。
- ・「ぼっちり」を知ったきっかけは「庁内掲示板」(パートナーシップだよりの連載)が約5割と最も多く、「ぼっちり」を活用する関係人口の活動も含めた周知が図れていると考える。

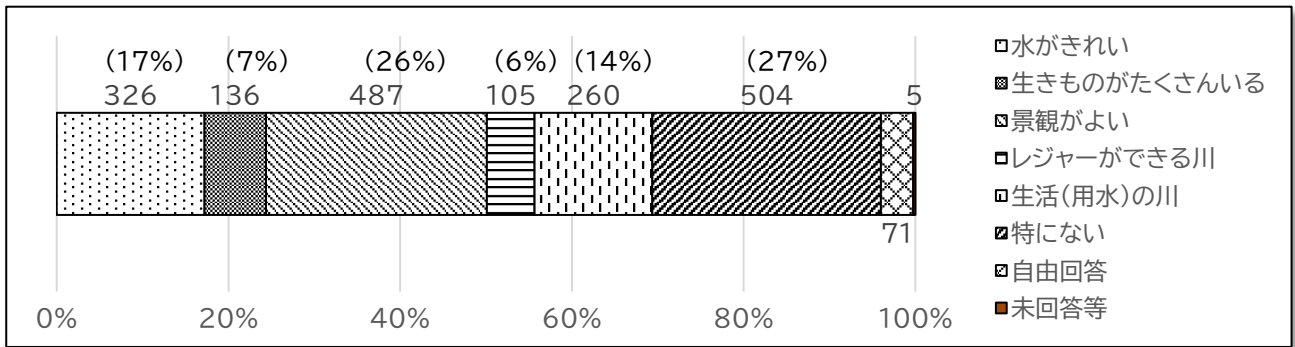
□ 質問8 鏡川を訪れる頻度を教えてください。



□ 質問9 1年以内に高知市内を流れる川を訪れた方にお尋ねします。  
どのような目的で川を訪れましたか。※複数回答(2190)



□ 質問 10 鏡川にどのようなイメージをお持ちですか。

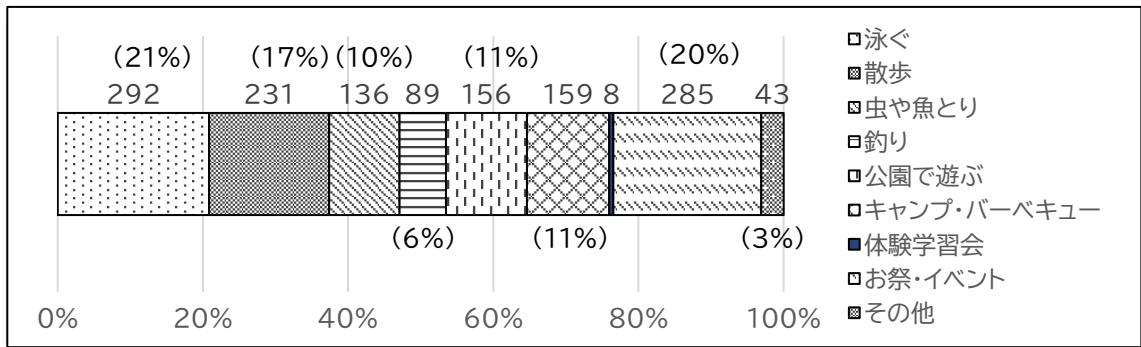


【質問8、9、10の分析結果】

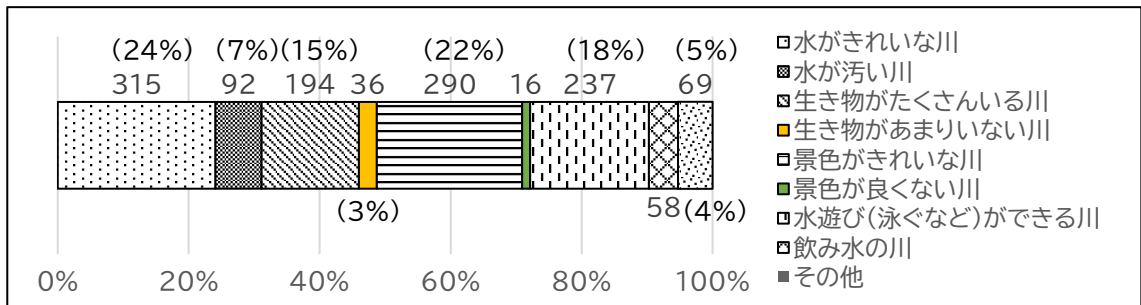
- ・「1年以上、河川を訪問したことがない」との回答が約2割で、「1年に1度程度」を合わせると約5割である。高知市では、浦戸湾や七河川、仁淀川など、多くの水辺空間を有しているが、川と人の距離は近いとは言えない状況である。
- ・自然とのふれあいの多様化が進む中で、今後は川との関わりの創出・拡大方法についても検討が必要と考える。

【参考】2017計画策定にあたってのアンケート結果

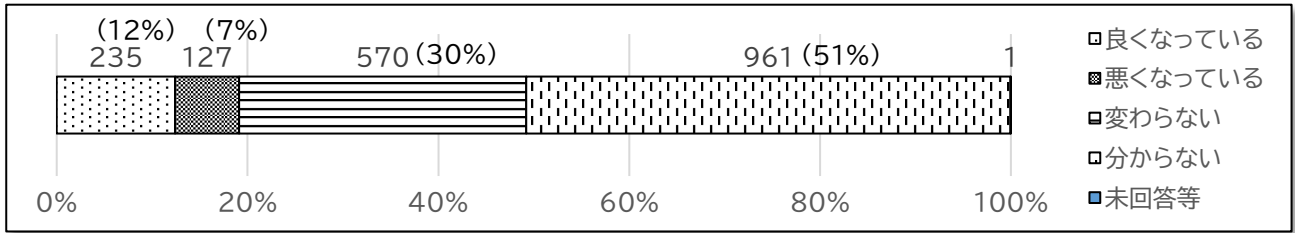
- 実施期間:平成 28 年6月 11、12 日
- 対象者:市民が選ぶ鏡川写真コンテスト 2016 投稿者、回答数:796 名
- 質問 鏡川ではどんなことをしましたか。※複数回答(1399)



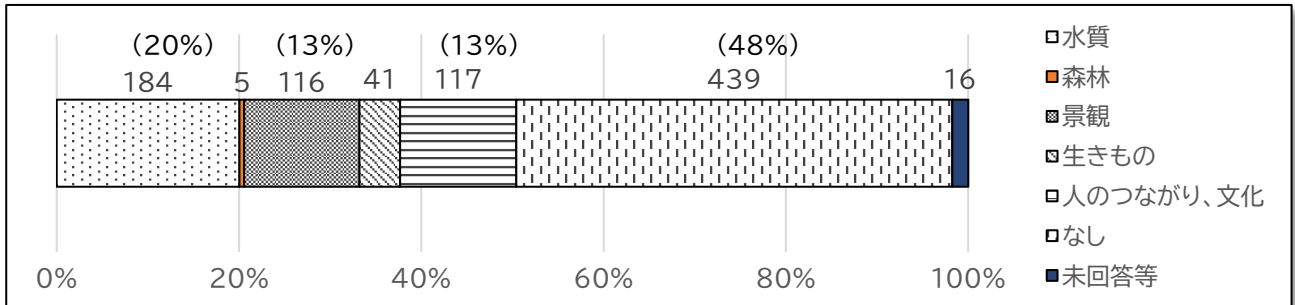
□ 質問 今の鏡川のイメージを教えてください。※複数回答(1307)



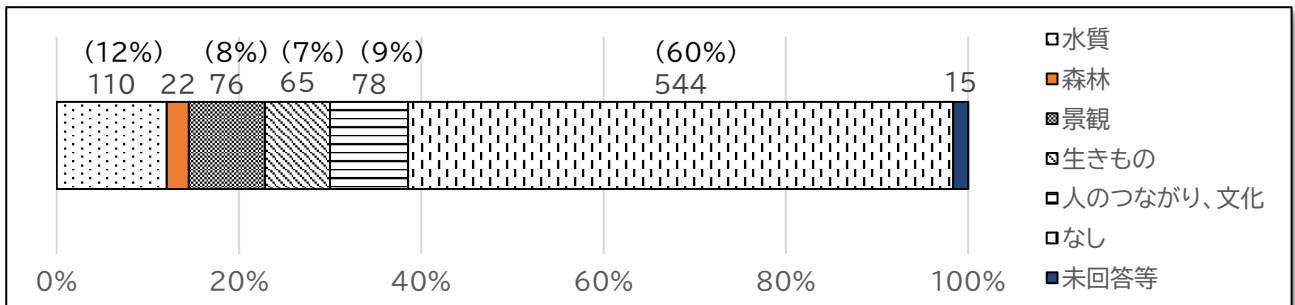
□ 質問 11 10 年前と比べ、今の鏡川の状況をどのように思われますか。



□ 質問 12 どのようなところが良くなっていると感じていますか。(918)



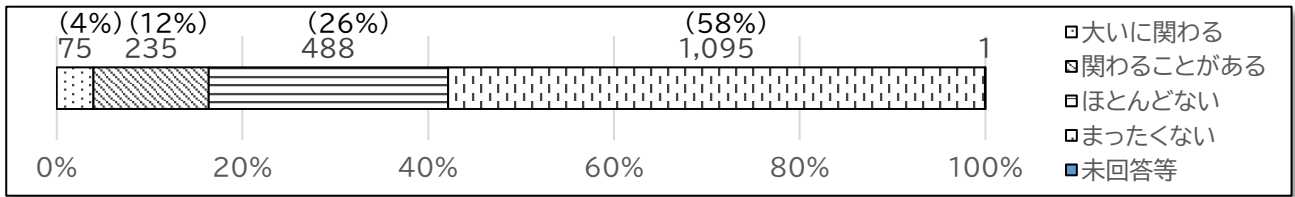
□ 質問 13 どのようなところが悪くなっていると感じていますか。(910)



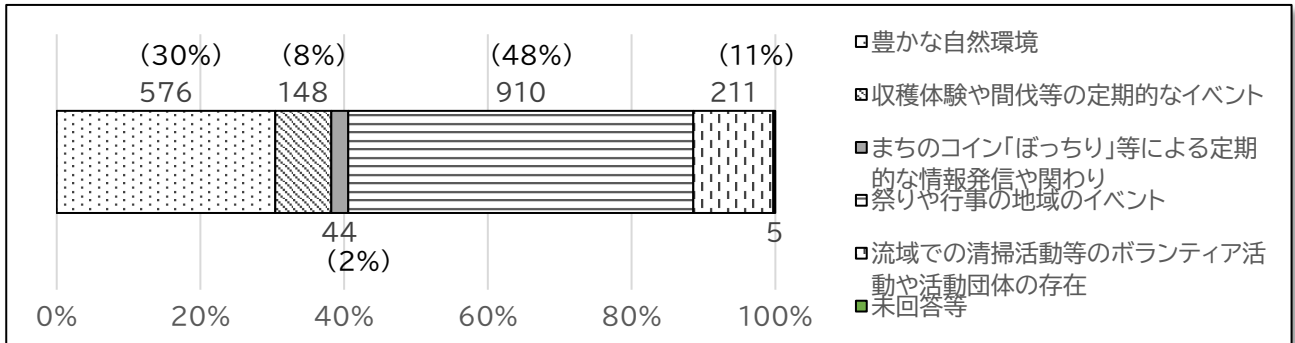
【質問11、12、13の分析結果】

- ・鏡川の状況については「分からない」が約5割と一番多く、次いで「変わらない」が約3割、「良くなっている」が1割強、「悪くなっている」が1割弱となっている。
- ・良くなっていると感じる項目は、「水質」が最も多く、「景観」や「人のつながり、文化」がほぼ同数で続いている。
- ・悪くなっていると感じる最多項目も「水質」であるが、10 年前と比較すると、下水道や合併浄化槽の普及が進んでおり、水質測定結果も悪化はしておらず、印象からの回答が多かったと推察される。
- ・こうしたことから、市職員の中では、鏡川の状況は現状維持、若干の改善という印象である
- ・一方で、「森林」の回答選択が少なく、上流域に位置する森林への日常的な関わりが少ないことが推察される。

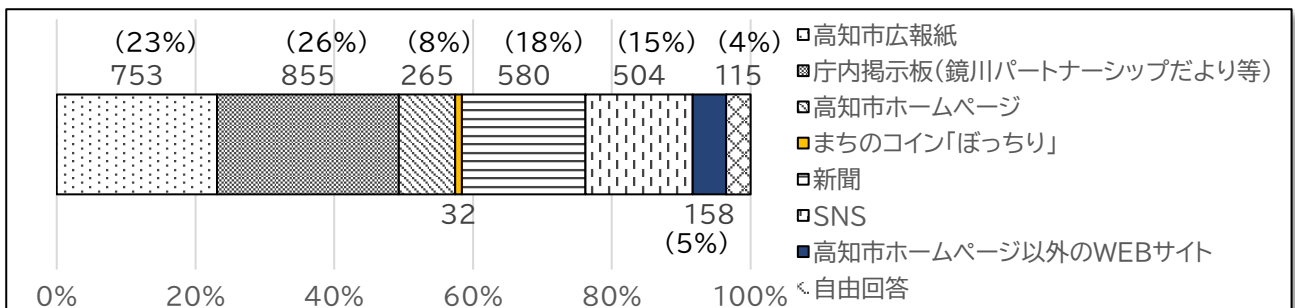
□ 質問 14 業務において、鏡川と関わることはありますか。



□ 質問 15 鏡川と日常的な関わりを持つにはどのようなことが必要だと思いますか。



□ 質問 16 あなたが鏡川のことを知る方法を教えてください。※複数回答(3262)



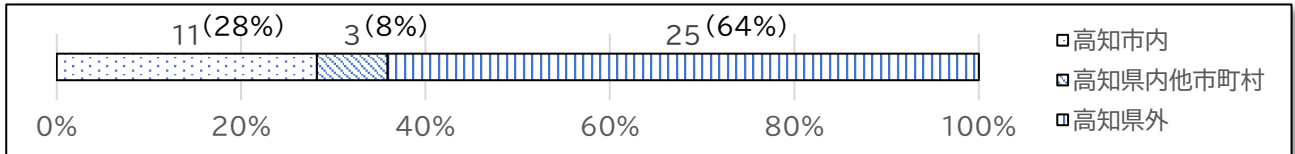
【質問14、15、16 の分析結果】

- ・業務における関わりは、他の中小河川を除き、鏡川に限って言えば、2割弱の回答である。
- ・鏡川との関わりを持つために必要なこととして、「祭りや行事の地域のイベント」が回答の約5割を占めており、回答が約3割の「豊かな自然環境」とともに、今後、重視すべき有効な手段であると言える。
- ・「流域での清掃活動等のボランティア活動や活動団体の存在」や「収穫体験や間伐等の定期的なイベント」も2割弱の回答がっている。
- ・こうしたことから、鏡川という河川空間の活用や流域の自然資源の活用を通じた関わりについて、活動の企画主体との連携や情報収集を強化し、パートナーシップだよりや「ぼっち」など DX の活用に加え、メディアなどの多様なチャンネルでの広報につなげるとともに、流域内外の関係人口に活動への参加を促すプラットフォームとして効果的な活用を図る必要がある。

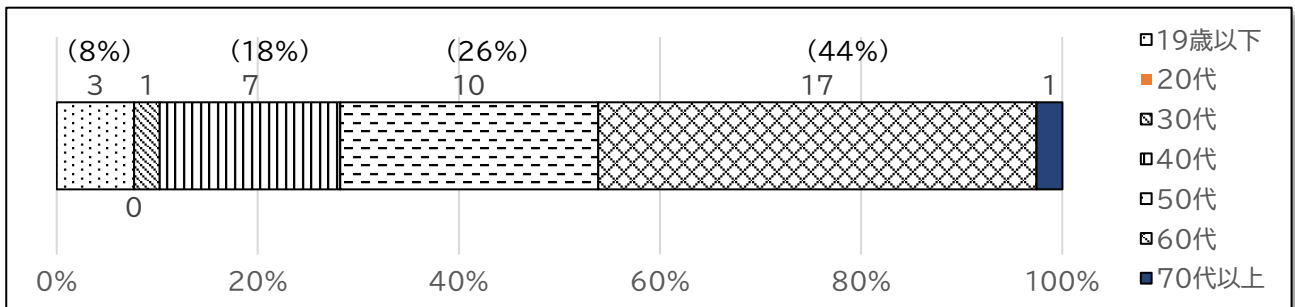
## 計画素案作成に向けてのアンケート結果(2)

- 実施期間:令和7年12月10日～令和8年1月9日
- 対象者:ぼっちリユーザー3,193名 ※アンケート実施時点
- 回答数:39名

### 質問1 回答者の居住地



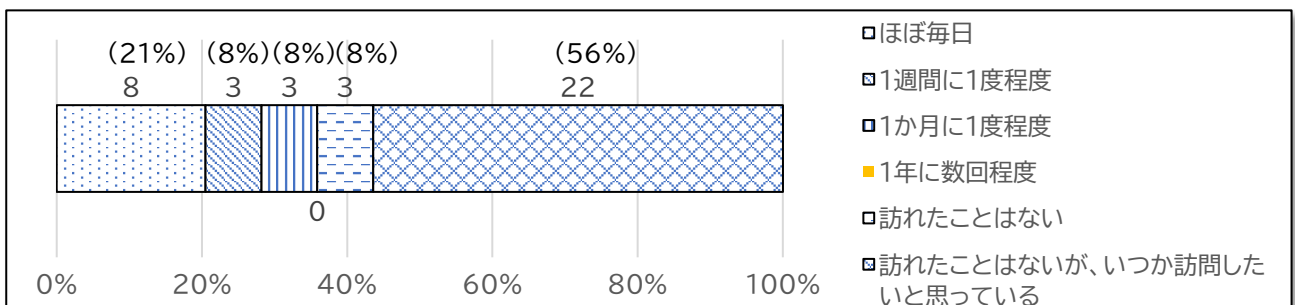
### 質問2 回答者の居住地



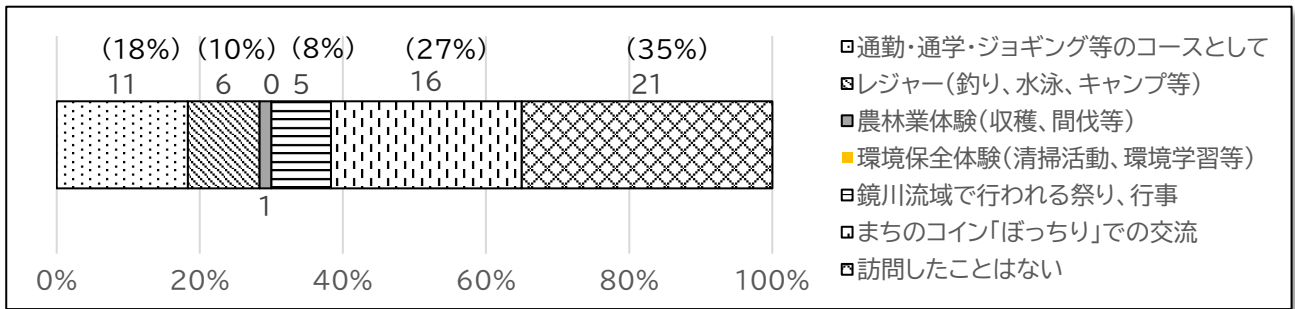
### 【質問1、2の分析結果】

・ぼっちリユーザーは60歳代、50歳代、40歳代の順に多く、20歳代、30歳代の若年層が少ない回答結果となっている。職員の回答結果と同様に、スマホアプリの活用に関わる世代のハードルは低くなっていると思われる。

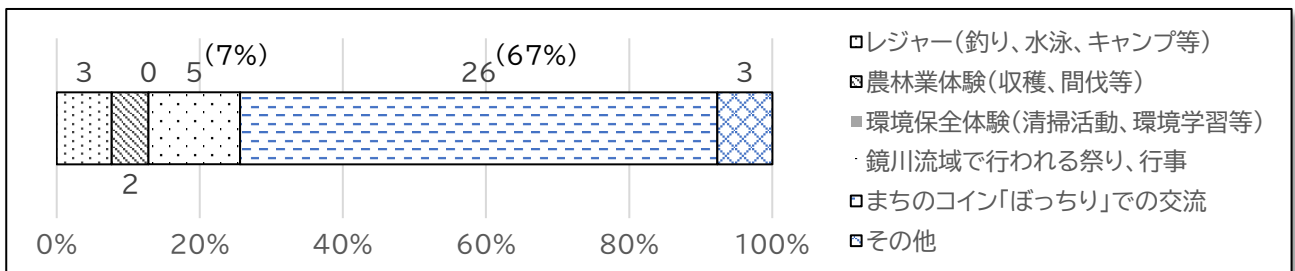
### 質問3 鏡川を訪れる頻度を教えてください。



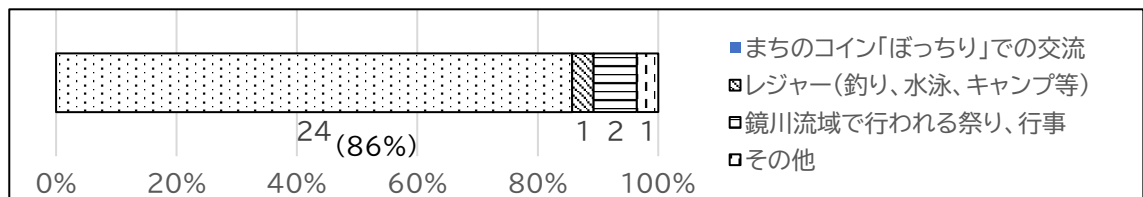
□ 質問4 鏡川流域を訪れた方にお尋ねします。どのような目的で川を訪れましたか。※複数回答(60)



□ 質問5 今後、どのような形で鏡川と関わっていきたいですか。



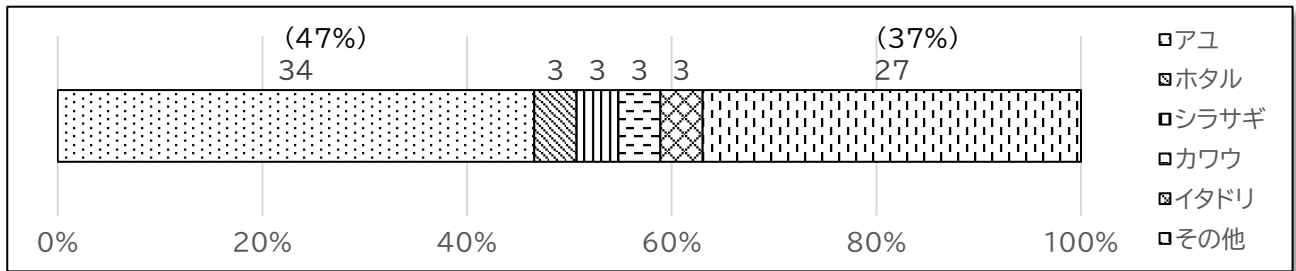
※市外在住「ぼっちりユーザー」と今後の鏡川との関わりについて



【質問3、4、5の分析結果】

- ・県内ユーザーは鏡川を月1度以上の頻度で訪れており、県外ユーザーは、今後、鏡川を訪れたいとの回答が多く、多様な関わりの機会創出が求められる。
- ・市外ユーザーのほとんどが、「ぼっちり」による交流の意向を持っており、今後も、流域での実際の活動につなげる「ぼっちり」を通じた交流が必要と考える。

□ 質問6 鏡川を代表する動植物として思い浮かぶものをすべて回答してください。(73)

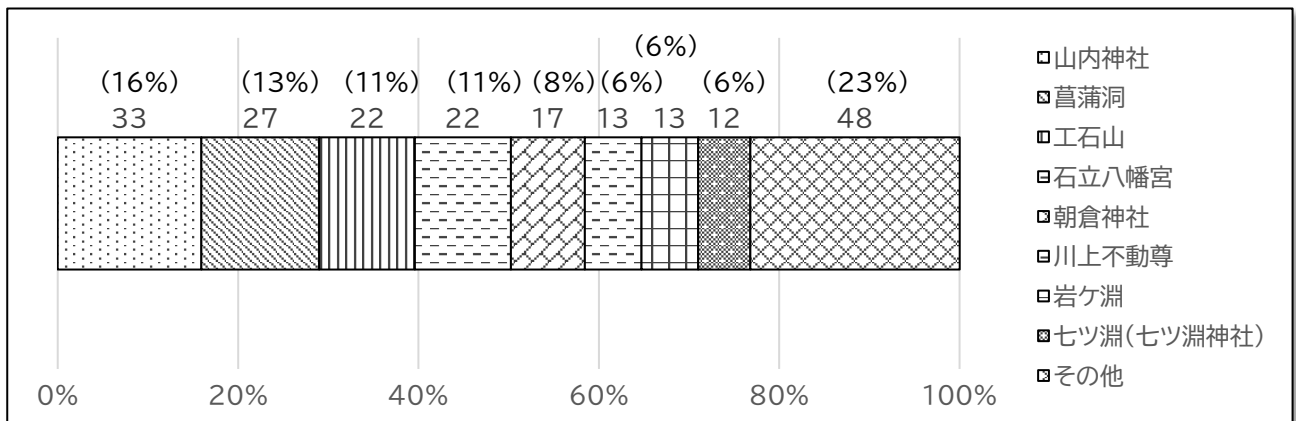


※その他

回答数2:センダン、ボラ、アカメ、ユリ、コイ、チヌ

回答数1:アメゴ、カワムツ、カモ、ネコ、ハエ、イダ、ニゴイ、テナガエビ、ウシガエル、ハト、トンビ、ミサゴ、カエル、カワセミ

□ 質問7 鏡川流域の知っている景勝地を教えてください。※複数回答(207)



※その他

高川溪谷 4、山姥の滝 5、大穴峡 7、樽の滝 9、平家の滝 8、領家の棚田 8、丸山台 7



【質問6、7の分析結果】

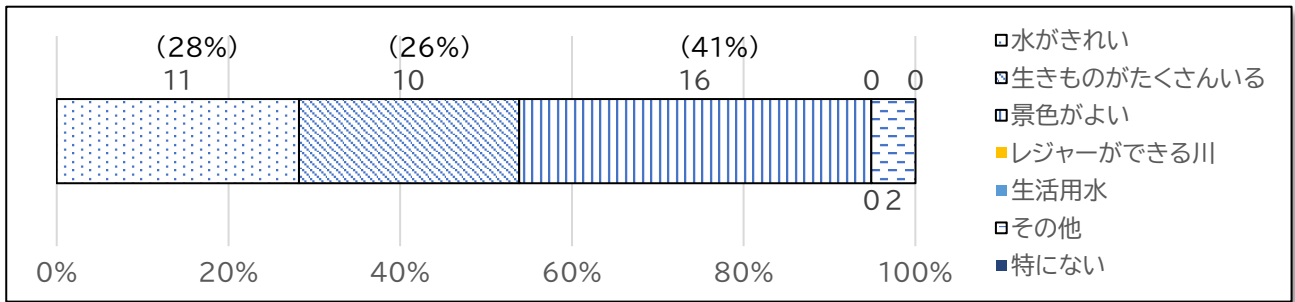
・代表する動植物の回答は、アユが最も多く、5割弱を占めた。「清流＝アユ」といったイメージは強く、鏡川は清流であるとのイメージが定着していると思われる。

(参考)県外ユーザー17名が「アユ」の単独回答。(複数回答を含むと22名)

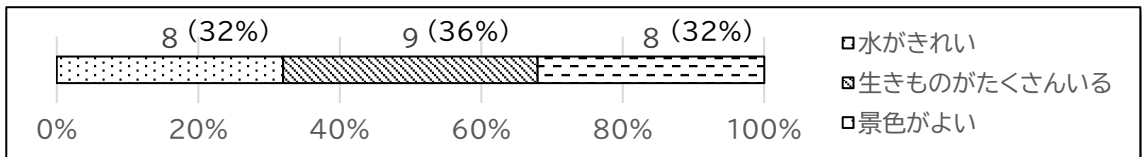
県内ユーザーも「アユ」の回答が多いが、その他の動植物を含めた回答が多い。

・流域の景勝地は、「鏡川流域パートナーシップだより」に掲載したスポットの認知度が高いように思われる。

□ 質問8 鏡川にどのようなイメージをお持ちですか。※複数回答(39)



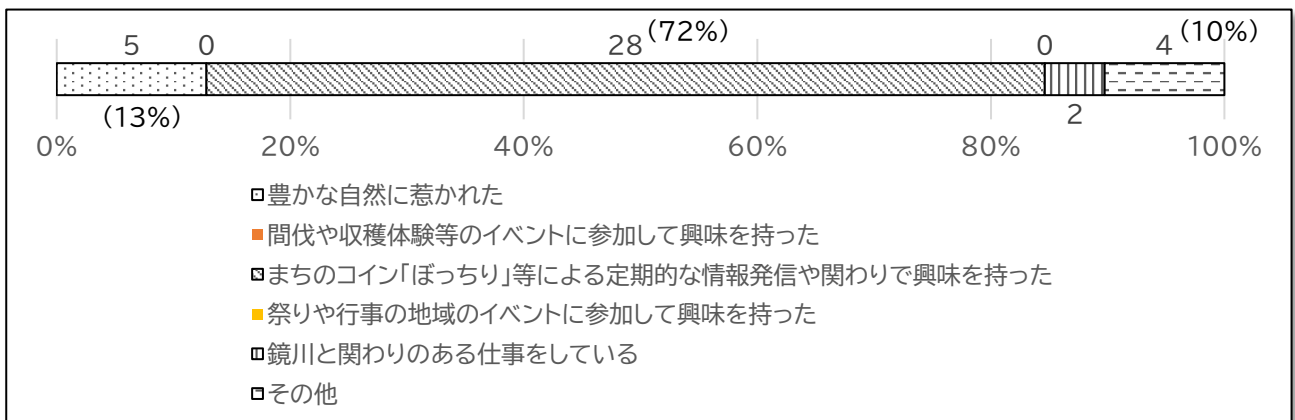
※市外在住「ぼっちリユーザー」と今後の鏡川との関わりについて(25)



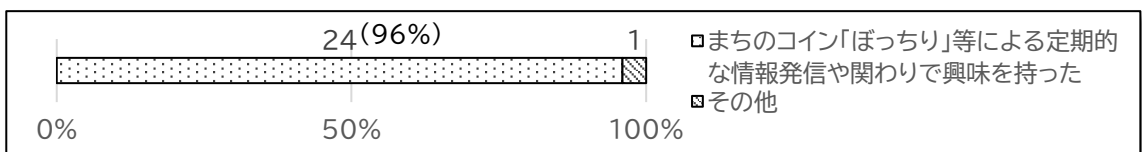
【質問8の分析結果】

- ・鏡川流域の訪問歴が少ない県外ユーザーであっても、「ぼっちリ」を通じた市内ユーザーとの交流から得た鏡川のイメージによる回答と思われる。
- ・母数が少ないが、職員の回答と比較して、生きものが多いと感じている割合が高く、流域外における鏡川のイメージが想像される。

□ 質問9 鏡川と関わるようになったきっかけを教えてください。(39)



※県外ユーザーの鏡川との関わりのきっかけ

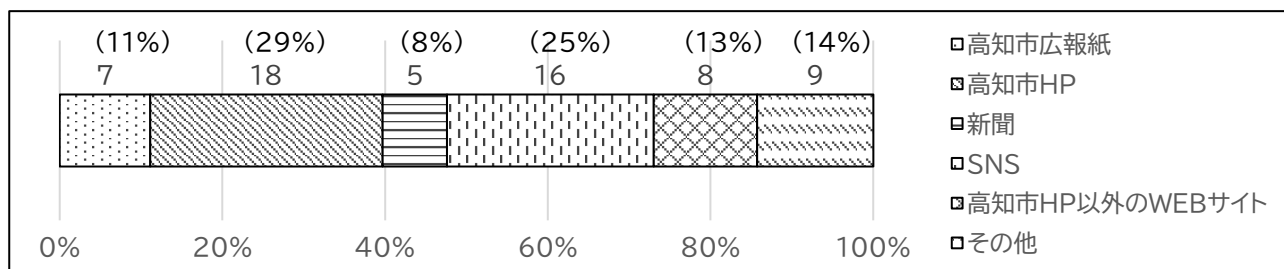


-----  
**【質問9の分析結果】**

・県外ユーザーのほとんどは、「ぼっちり」の活用をきっかけに鏡川に関心を寄せたことで、流域外  
の関係人口として、オンラインを中心に、現地も含めた活動に取り組んでいることが確認できた。

-----

=====  
**□ 質問 10 鏡川と関わるようになったきっかけを教えてください。※「ぼっちり」を除く(63)**



-----  
**【質問 10 の分析結果】**

・ぼっちりユーザーの情報収集手段としては、市ホームページや「ぼっちり」を除く SNS が多く、市  
以外の WEB サイトや市広報紙、新聞など、多様な媒体を活用している。  
・今後も、鏡川との多様な関わりを創出できるよう、バランスよく、多様な広報手段の活用が必要  
である。

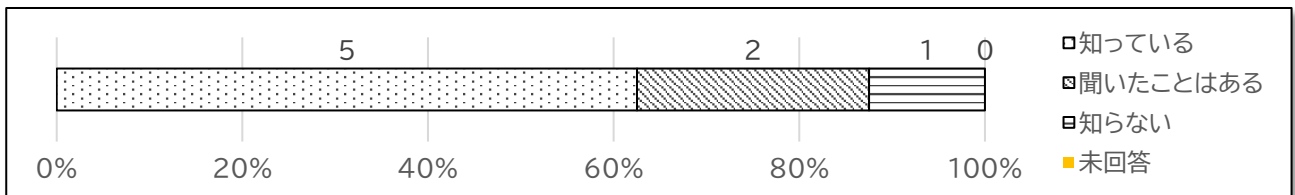
-----

## 計画素案作成に向けてのアンケート結果(3)

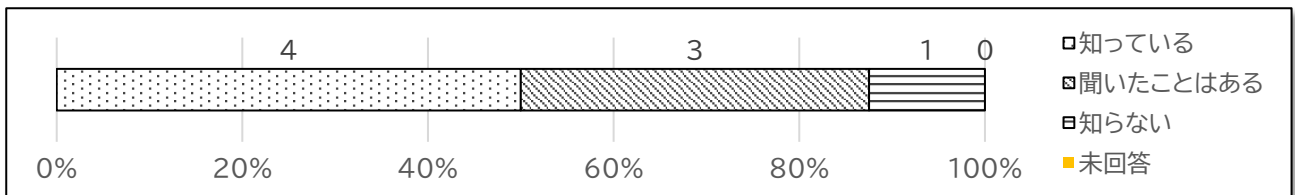
- 実施期間:令和7年12月10日～令和8年1月9日
- 対象者:鏡川流域の活動団体 8団体 ※アンケート実施時点
- 回答数:8団体

### 【団体の回答者個人への質問、回答】

- 質問1 鏡川清流保全条例について知っていますか。



- 質問2 鏡川清流保全基本計画について知っていますか。

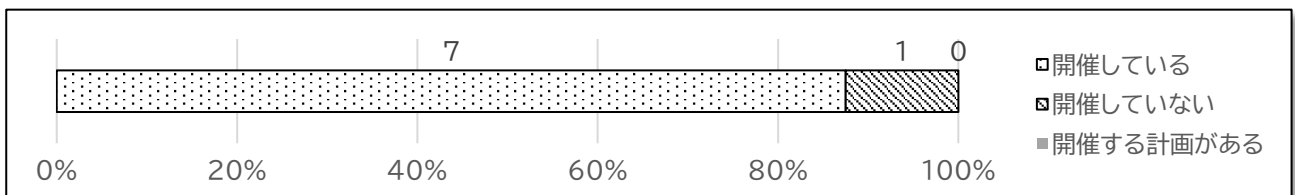


### 【質問1、2の分析結果】

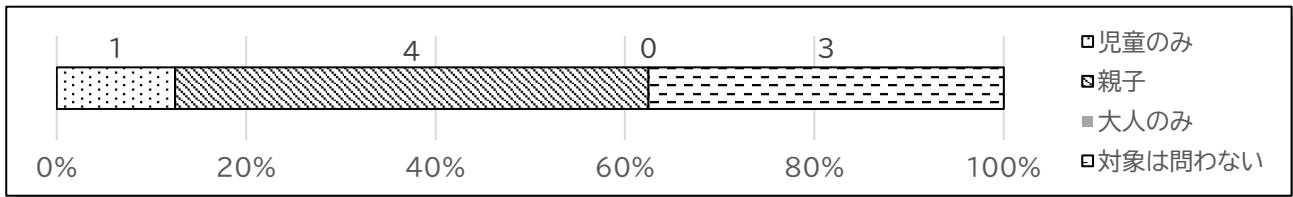
・鏡川清流保全条例や鏡川清流保全基本計画は、ほとんどの団体の回答者に認知されている。「知らない」や「聞いたことはある」との回答者は学生が主体の団体であり、今後、条例や計画について、若年層への周知が必要である。

### 【団体への質問、回答】

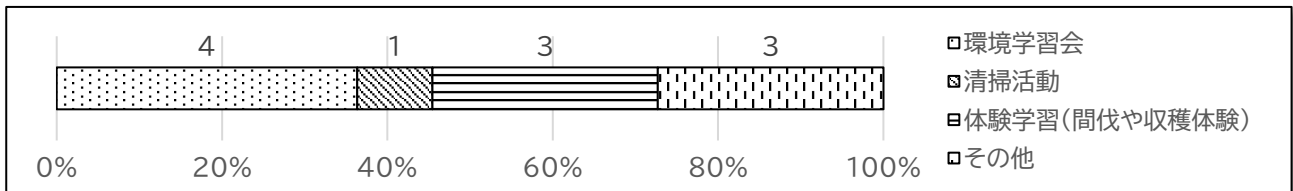
- 質問3 鏡川で市民を対象としたイベントを開催していますか。



□ 質問4 イベントはどのような方を対象としていますか。※複数回答



□ 質問5 イベントはどのような内容ですか。※複数回答



※その他

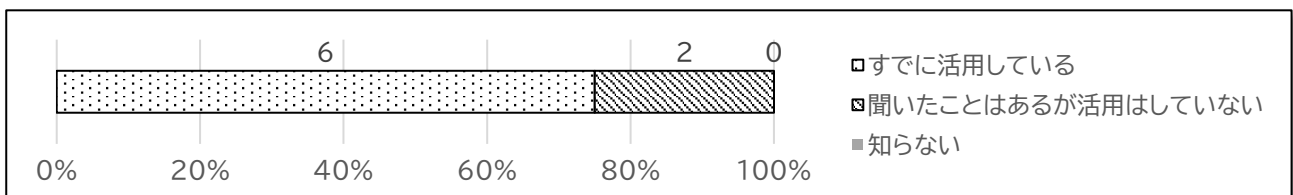
鏡川での交流イベント、ワークショップ



【質問3、4、5の分析結果】

- ・アンケート対象団体のほとんどが、何らかのイベントを開催している。
- ・2017 計画策定時のアンケートや今回の職員アンケートの結果では、人と川との関わりとして、気軽に参加しやすい「祭り」や「イベント」が上位に位置しており、活動団体の主たる企画内容である「鏡川を題材とした学習的な要素」に追加すべき視点として、一般市民の「参加しやすさ」を組み込むなどの工夫が必要であると思われる。

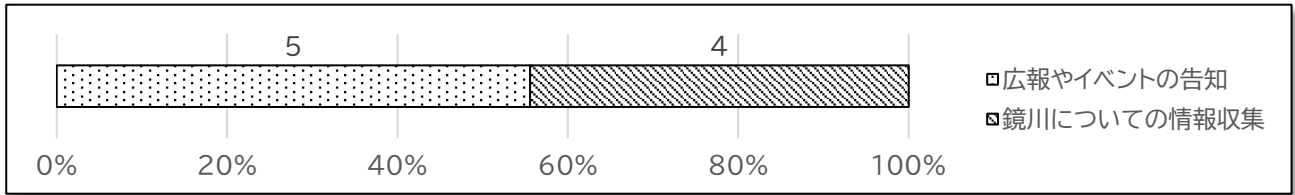
□ 質問6 高知市が運用しているまちのコイン「ぼっちり」をご存知ですか。



【質問6の分析結果】

- ・イベントを開催している団体のほとんどが「ぼっちり」を活用している。
- ・今後、さらなる活用につながるよう、周知広報が必要である。

□ 質問7 「ぼっちり」をどのように活用していますか。



□ 質問8 貴団体の活動でもっとも鏡川に関わる活動について教えてください。※自由回答

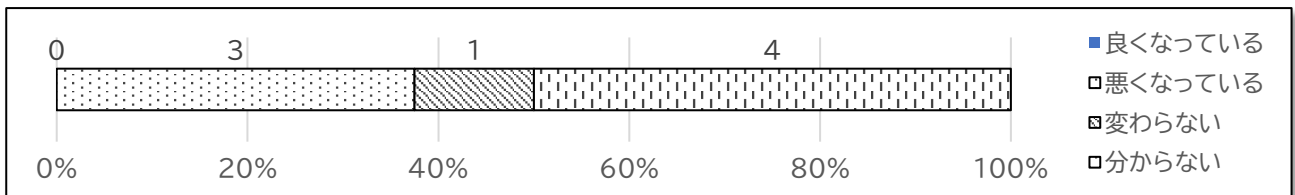
- ・本団体では、鏡川の生物調査、普及啓発、保全を行うことを目的として活動しています。
- ・森林整備事業
- ・ホテル保全の活動紹介、野草希少植物の保全
- ・鏡川の清掃活動
- ・新エネルギー・環境政策課との共催事業として、小学 3～6 年生を対象に、「いきもの発見 in 鏡川！」を開催しています。いこい広場で、水生昆虫や魚の採集、また、鏡川にいる生きもの調べ、鏡川学習を行っています。
- ・山に人を巡る仕組み作り



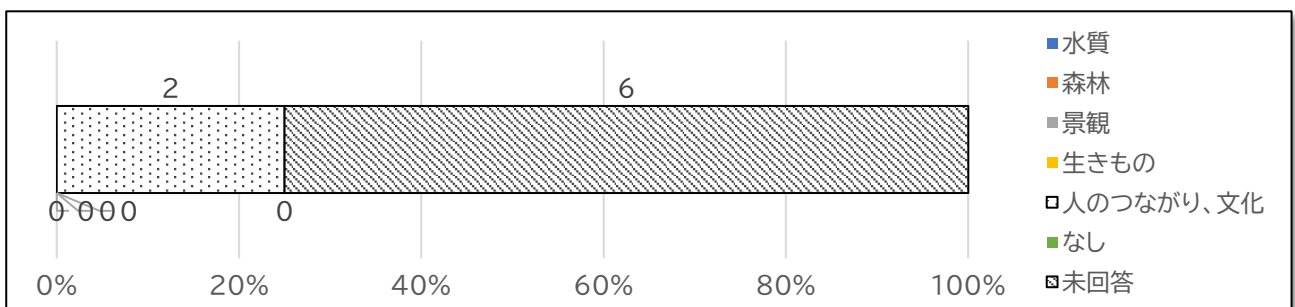
【質問7、8の分析結果】

・「ぼっちり」は、各団体の活動の告知や鏡川の情報収集に活用されており、「つながりを生む」、「誰かの役に立つ」、といった「まちのコイン」が想定しているアプリの機能を果たしている。

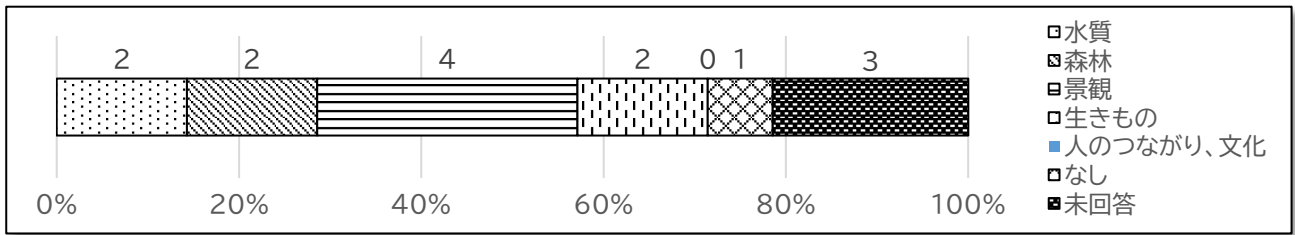
□ 質問9 10年前と比べ、今の鏡川の状況をどのように思われますか。



□ 質問10 どのようなところが良くなっていると感じていますか。※複数回答

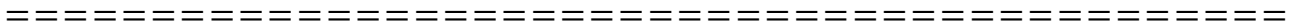


□ 質問 11 どのようなところが悪くなっていると感じていますか。※複数回答

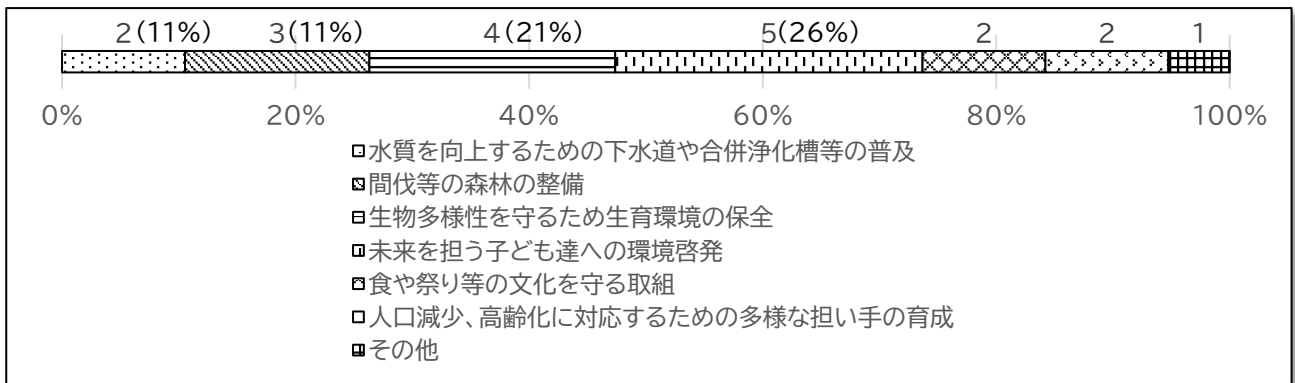


【質問9、10、11 の分析結果】

- ・質問9では、各団体の活動が 10 年間継続しているかどうか不明であり、回答は「わからない」が多いが、「良くなっている」はゼロで、「悪くなっている」が一定数ある。
- ・関連して、質問 11 では、景観の状態が良くないという回答が多く、構成要素としての水質や森林、生きものなども、複数団体からの回答が見られる。
- ・一方、質問 10 では、「人のつながり、文化」が良くなっているとの回答が複数団体から寄せられており、今後の取組の参考となる視点と言える。



□ 質問 12 鏡川を守っていくために最も必要だと思われることを挙げてください。※複数回答(19)



※その他

- ・環境に携わる大人の視点から必要と思う内容を、どんどん子どもたちに教えてほしい、そんな体験活動イベントがあっても良いと思う。
- ・生物多様性について伝えていく方法を考えていきたい。



【質問 12 の分析結果】

- ・子どもたちへの環境啓発や、生物の生育環境の保全、森林整備など、自然環境の保全や活用に関する活動に加え、流域の文化や担い手の育成についても、複数団体から回答があっている。

